日刊県民福井　平成25年7月11日

(株)西村金属

福井のこま 一番きれい

「対戦」全国大会で称賛の声

漆器や眼鏡製造技術で作ったこま
＝いずれも鯖江市回す座提供

県代表 惜しくも初戦敗退

町工場が自社技術で作ったこまを対戦させる全国大会に、鯖江市にある眼鏡関連企業の若手社員らのグループが県代表として出場した。惜しくも初戦で敗退したが、出場者は「福井の地場産業の技術をＰＲできた」と手応えを感じている。

大会は、全国の中小企業のものづくり技術をアピールする目的で開かれている「全日本コマ大戦」の一環。初の団体戦が今月６日、長野県で開かれ、13都府県代表と１団体、１大学の15団体が出場した。

「鯖江市、福井県の技術をＰＲ」しようと、眼鏡部品や越前漆器製造、眼鏡材料を扱う商社などの６人で県代表「鯖江市回す座」を結成。灰皿をかたどったチタン製、赤い色彩がきれいな樹脂製、黒檀（こくたん）に花柄の蒔絵（まきえ）を施した〝漆器ゴマ〟など、個性豊かな５つのこまを作った。

大会は、団体が５つのこまを対戦させる勝ち抜き戦で、茨城県代表との初戦に臨んだ。重量がある金属製の相手こまにはじかれ、動きを止められるなどして３連敗。４番手で出場したチタン製のこまが、３連勝して場を盛り上げたが、最終的に３勝５敗で敗れた。

勝負では負けたが、会場からは「福井のこまが一番きれい」との声が聞かれたという。服部祥也さん(46)は「目立つことが目標だったので満足」と手応えを感じた様子。監督を務めた飛山昌久さん(38)は「こま遊びの中で、みんながいい物を作りたいと研究し、技術力の向上につながっている。工夫を加えてまた挑戦したい」と話している。

（古谷祥子）

茨城県代表のこまと対戦する福井県代表＝長野県上田市で